

水稲の斑点米カメムシ類の発生に注意!!

～近年発生の多い地域や常発地では特に注意しましょう～

(病害虫発生予報7月号より)



クモヘリカメムシ成虫



イネカメムシ成虫



アカスジカスミカメ成虫



斑点米 (写真: 病害虫防除所)

本県における主な斑点米カメムシ類は、クモヘリカメムシ、イネカメムシ、アカスジカスミカメで等級格下げの主要因となっています。

病害虫防除所で、6月下旬に、水田周辺のイネ科雑草地ですくい取り調査をした結果、斑点米カメムシ類の発生を多く確認しました(表)。

斑点米カメムシ類の成虫は、水稲の出穂前は畦畔や周辺のイネ科雑草地に生息し、出穂とともに水田に侵入します。

「あきたこまち」等の早生品種の水田では、成虫の飛来が集中する恐れがあります。また、その他の品種についても周辺より出穂の早い水田では、発生に注意して下さい。

防除対策

1. **斑点米カメムシ類の生息場所となる畦畔や水田周辺等の除草をする場合は、出穂の2週間位前までに必ず実施**して、カメムシ類の生息場所を減少させてください。(出穂直前の除草は逆にカメムシ類を水田に追い込む可能性があるため避ける)
2. **本田に侵入したカメムシ類を対象とした防除時期は、出穂期～穂揃期**です。
なお、イネカメムシが主体の多発圃場では不稔等による減収を防止するため、**出穂期前後にイネカメムシが確認されたら直ちに薬剤防除を行います**。
3. **斑点米の被害軽減を目的とした防除適期は、乳熟期(穂が出始めてから10～15日後頃)**です。なお、**イネカメムシが主体の圃場ではやや早く、乳熟初期(出穂10日頃)から薬剤防除を行います**。**発生量の多い地域では、出穂期～穂揃期と乳熟期の2回の薬剤防除が必要になります**ので、必要に応じて追加防除を行きましょう。
4. **出穂が周辺よりも早い水田、ヒエ等の雑草が多発している水田では、カメムシの飛来が集中しやすい傾向**があります。また、**出穂の遅い水田では、周辺の水田で増殖した新成虫が侵入してくる**ことがあります。特に、イネカメムシでは集中して加害し、不稔による減収や斑点米が多発生しやすいので、これらの水田では特に十分な注意が必要です。
5. **周辺に収穫期が近い圃場のある場合は、農薬の飛散(ドリフト)に十分注意**して薬剤を選定してください。なお、ミツバチへの被害を軽減するため、ミツバチの活動が盛んな時間帯(午前8時～12時まで)を避け、可能な限り、早朝または夕刻に実施してください。



表1 水稲 カメムシ類の主な防除薬剤

(令和6年7月4日現在)

| 薬剤名 | 希釈倍数 | 使用時期 / 使用回数 | 分類 |
|------------|--------------|-----------------|----|
| エクシードフロアブル | 2,000倍 | 収穫7日前まで / 3回以内 | 4C |
| スタークル顆粒水溶剤 | 2,000倍 | 収穫7日前まで / 3回以内 | 4A |
| キラップフロアブル | 1,000～2,000倍 | 収穫14日前まで / 2回以内 | 2B |
| トレボン乳剤 | 2,000倍 | 収穫14日前まで / 3回以内 | 3A |
| スミチオン乳剤 | 1,000倍 | 収穫21日前まで / 2回以内 | 1B |

注) 1. 専用の少量散布用ノズルを装着した乗用型の地上液剤散布機器を用いる場合や、無人航空機を使用する場合には、それぞれの農業使用基準を遵守して使用してください。 2. 分類欄には、IRACコードを記載しました。

■ 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

■ 営農 News は JA 全農いばらき ホームページでもご覧になれます。